

# HOT NEWS

3月号

## GPSケータイで

## 通学路の安全マップづくり

地域の防犯対策に関心が集まる中、今年1月、大阪教育大学附属池田中学校でユニークな防犯授業が行われました。生徒たちが町を歩き、GPS機能のあるカメラ付き携帯電話を使って通学路の危険箇所を確かめながら、安全マップを作るという授業です。

### 生徒たち自身が町を歩いて危険度チェック

施されました。初日のフィールドワークでは、6班に分かれ、学校から阪急池田駅

安全マップづくりに挑戦したのは、2年生160人。授業は、地図情報システム(GIS)の活用に取り組み、NPO「GIS総合研究所」のサポートの下、生徒自身が地域を歩いて危険箇所を知るフィールドワークの「総合的な学習」と、集めたデータを元にパソコンで安全マップを作る「情報」の2回に分けて実



「ここは怖い」と自分たちの集めた情報をパソコンで検索。普段は気づかない危険ポイントがいっぱい

までの約1.5キロをじっくり観察。地図情報システムのソフトがインストールされたGPS機能のある携帯電話のカメラで、危険と思われる箇所と心安らぐポイントを見つけ撮影しました。カーナビなどでおなじみのGPSとは「衛星利用測位システム」で、アメリカの軍事衛星を利用して地図情報をキャッチするシステムです。シャッターを押すとGPSにより、現在地が地図に記され、画像と、一緒に教室のパソコン画面に送られるしくみです。

**日頃から「ここは危険!」と「感じる」ことが何より大事**

教室で行われた情報の授業では、グループごとに集まり、パソコンに取り込まれた画像と地図を見な

から「この壁が死角に」「人気の少ない夜が危ない」など、気づいたことを発表していきます。GPSの原理や地図情報システム(GIS)のしくみについても学びました。

指導に当たったGIS総合研究所の川添博理事長は「防犯教育は、日頃から「ここは危険だ」と気づき、感じることが大事です」と言います。また、安全講話を行った大阪教育大学講師・学校危機メソナルサポーターセンターの広瀬隆二氏は「危険予知能力を磨いてほしいと思います。危ないと思うだけでも効果があります」。授業を担当した技術科・若江

三賀子先生は「単発の授業に終わらせず、生活に役立つ安全マップを完成させて今後に生かしたいですね」と話します。



パソコン画面に取り込まれた危険ポイントの写真と地図情報。

